



「正々堂々、一生懸命に頑張ります！」

7月10日に行われた、昭栄小学校(奥田泰朗校長・児童5人)の運動会での1こです。今年唯一の新入生である1年生が、児童を代表して選手宣誓を行い、たくさんの拍手が送られました。

(参考記事22~23ページ)

Public relations magazine

2011.8 No.684

てしかが

主な内容

- 第5次弟子屈町総合計画の基本構想がまとまりました・・・②
- 企業を応援します！……………④
- 第62号町議会だより第2回定例会……………⑥
- 運動会・体育大会……………⑲
- なつ・祭り・いろいろ……………⑳
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設……………㉑

むかしむか史(250)

てしかが歴史写真館 124



釧路川上流から旧弟子屈橋を見る。岩盤(築)の上を流れ落ちる釧路川。

この付近の川岸に温泉が湧き、洗濯場になっていて付近の人たちは「カラスの湯」と呼んでいた。

弟子屈橋付近のアイヌ語地名

『弟子屈町史(1949(昭和24)年刊・更科源藏編)』の「弟子屈地名調」では、弟子屈橋付近から栄橋付近のアイヌ語地名を上流から

タツタルケー大石があって波の立つところ(グランドホテル付近の釧路川の急流)

(筆者注:ホテルニュー子宝付近から弟子屈橋上流)

ヌナヨローヌ(温泉)ナヨロ(オイ・オロ=谷川)

(筆者注:地名の場所は不明。しかし、右岸沿いのタツタルケのところに温泉の湧くところがあり、洗濯場があった)

テシカガーテシカ(岩盤)ガ(上)〈共同浴場付近の古川の川床〉

(筆者注:旧摩周パークホテル裏。二重線は筆者)

シュマフッカーシュマ(石)フッカ(浅瀬)〈今泉氏の裏にあった古川の浅瀬〉

(筆者注:現在の釧路信用金庫弟子屈支店の裏。二重線は筆者)

と解説しています。

「むかしむか史49号(永田等著)」では「テシ(築)・カ・カ(上または岸)」と訳され、厚い岩盤が川床を持ち上げて、自然地形のまま築をつくり出していたことから、テシと当てられたようです。カカと続けて呼称している意味は「岩盤がいくつも重なって向こう岸まで横切っていることから…」と推定しています。

写真は、アイヌ語地名の「タツタルケ」付近と思われ、このような岩盤が築のようになって「シュマフッカ」まで続いていました。その途中の「テシ・カ・ガ」のアシの生い茂った湿地に温泉の湧くところがあり、1883(明治16)年、本山七右衛門が温泉宿(本山旅館)を建て、やがて弟子屈市街地が形成されていったのです。

※築:魚をとるための漁具・仕掛け

てしかが郷土研究会(松橋)

てしかが 2011.8

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/企画財政課 ☎482-2913 ㊟482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

R100 この広報紙には再生紙を使っています